

対話 福島

当館上級研究員の開沼博が、
ゲスト文化人そして一般の参加者らと
語り合い「伝承」の在り方や
「被災と復興」の捉え方を
共に考える二日間。
対談、対話それぞれのみの
参加も自由です。

参加者
募集中



DIALOGUE FUKUSHIMA 2026 vol.6

1日目「対談」

3/21(土) 14:00～15:30

ゲストの鈴木結生さんと当館上級研究員に開沼博
による対談。今年度のテーマ「涉獵(しょうりょう)」
に沿って思考を深めます。

今年度のテーマ

しょうりょう
「涉獵」

あちこちと広くあさって歩くこと。
転じて、
多くの書物を読みあさること。

2日目「対話」

3/22(日) 12:30～14:30

一般の参加者とゲストの鈴木結生さん、当館上級研
究員の開沼博がグループに分かれ、初日の対談や
各々の体験や思いを踏まえ、全員で対話を行います。

Guest 鈴木 結生 作家

2001年福岡県生まれ。
福岡県立修猷館高校、西南学院大学外国語学部を卒業後、
同大学院で英文学を研究中。2024年に林芙美子文学賞佳
作でデビュー、2025年に『ゲーテはすべてを言った』で第
172回芥川賞を受賞し、21世紀生まれ初の芥川賞作家と
なる。
幼少期を福島県で過ごし東日本大震災を経験、大学では聖
書や世界文学に触れ、現在は福岡を拠点に創作活動を行う。



Navigator 開沼 博 社会学者

1984年福島県生まれ。
東京大学文学部卒。同大学院学際情報学博士課程単位取
得退学。2021年4月より東京大学大学院情報学環学際情
報学府准教授。他に、東日本大震災・原子力災害伝承館上
級研究員、ふくしま FM 番組審議会委員、東日本国際大学
客員教授。専門は社会学、福島学。著書に『日本の盲点』
(PHP研究所)『はじめての福島学』(イースト・プレス)『フ
クシマ』論 原子カムラはなぜ生まれたのか』(青土社)など。
学術誌の他、新聞・雑誌等にルポ・評論・書評などを執筆



参加
条件

どなたでも“無料”で
ご参加いただけます。

参加
方法

こちらのフォームから
お申し込みください。



会場

東日本大震災・原子力災害伝承館
福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 39

【主催】

東日本大震災・
原子力災害 伝承館



詳しくはこちら

「対話福島 2026」公式サイト
<https://www.taiwafukushima.org/>

